

全力結集

JA全農グループでは、5年後、10年後を見据えて、全国で結集し、全力で自己改革を完遂するとともに、新たな事業領域に挑戦し、生産者・JAグループの未来を創っていく決意で事業を進めています。本企画では、地域の畜産振興を図るため各地域での生産者・JAなどと連携した取り組みを紹介していきます。

JA西日本くみあい飼料株式会社



出品牛のできを確認する生産者・関係者の方々

系統出荷牛枝肉共励会の開催

JA西日本くみあい飼料株式会社では、毎年6月末に兵庫県加古川食肉地方卸売市場にて、「系統出荷牛枝肉共励会」を主催しています。地域JAをはじめJA全農やJA全農ミートフーズ(株)など各団体と協力し、2019年度には第11回目の共励会を開催しました。

ける事 ②飼養管理技術の向上に資する事 ③肉牛経営の振興・発展に寄与する事 ④生産基盤の維持・拡大を図る事を目的として開催しています。

昨年度は、兵庫、香川、愛媛の3県から、黒毛和種・交雑種の合計56頭を出品いただきました。生産者の皆さまに非常にレベルの高い牛を多数出品いただき、飼料製造・販売を担う当社社員の励み・誇りにつながっています。褒賞式後には生産者・関係者による懇親会を行い、県の垣根を越えた情報共有を行うとともに懇親を深める良い機会となっております。

また入賞の副賞には、当社の配合飼料や通販サイト「JAタウン」でも人気の牛肉やドーナツを用意するなど、JAグループ独自の取り組みを行っています。

今年は、新型コロナウイルスの影響により開催を心配した時期もありましたが、多くの生産者及び関係者から開催を望む声が届きましたので、生産者・関係者の皆さまの健康や安全の確保に最大限配慮し



思いを込めて育てた牛が受賞すると、喜びもひとしお

た上で、第12回目の開催を2020年6月26日に予定しています(5月12日現在)。

今後も当社の配合飼料ご利用の皆さまに少しでも喜んでいただくために、JAグループだからこそできるオリジナルティ溢れる取り組みを考えていきます。この「系統出荷牛枝肉共励会」を通じて、JAグループの結束力を更に高めると同時に、生産者の皆さまの肉牛経営の発展に少しでも寄与できればと願っています。

定例の研修会を開催し地域の畜産振興に貢献

2019年11月27日、「令和元年度系統肉牛経営後継者育成研修会」が秋田市内のホテルにおいて開催されました。当日は、県内の肉用牛後継者をはじめ、肉用牛経営者と県内JA畜産団体、秋田県や関係機関など約40名に参加いただきました。

この研修会は、肉用牛経営における飼養管理技術の向上と経営健全化、若手関係者の技術者の養成を目的に、JA全農北日本くみあい飼料(株)の秋田営業所が毎年主催しており、昨年度で第7回目を迎えました。講演には、JA全農飼料畜産中央研究所の笠間乳肉牛研究室から武本智嗣研究員が「繁殖牛と子牛の飼養管理」をテーマに登壇。また、

秋田県中央畜保健衛生所からは山口恭代副主幹が「牛の衛生管理」の演題で話をされました。

武本研究員からは、研究所での実証試験をふまえ、肉用牛を多方面から見た飼養管理について説明されました。具体的には、飼料を適切な栄養濃度で給与する事が肝要である事。これにより母牛の健康状態が改善し、加えて母乳の質

も良くなる事で子牛の健康状態が向上していくという試験結果が伝えられました。また、飼養密度など環境要因を考慮する事で生産成績が改善されるポイントなども紹介されました。山口副主幹からは、飼養環境や寒冷ストレスへの対応策の紹介や、消毒の重要性と実施方法についての話がありました。

引き続き、(株)科学飼料研究所からは峯吉健太氏による同社製品の紹介がありました。牛初乳代用乳製品の新しく改良された点や、その他関連商品などもあわせて利用メリットが話されました。

このほかにも会場では最新の畜産用ICT機器についてメーカーによる説明も行われました。当研修会は、担い手肉用牛経営者の情報交換の機会にもなっており、講演の終了後は、研修参加者による交流会も開催されました。

私どもは、今後も生産者の方々の生産性・経営成績の向上はもちろん、ひいては地域の畜産振興や発展に役立てるよう取り組んでまいります。

JA全農北日本くみあい飼料株式会社



秋田営業所が主催する「系統肉牛経営後継者育成研修会」は今回で7回目。肉用牛の飼養管理技術の向上と、参加者の情報交換の場としてこれからも取り組んでいく